

彩の歳時記

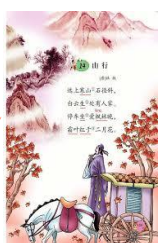
平成二十六年 十一月



山行 杜牧

遠上寒山石径斜
白雲生處有人家
停車坐愛楓林晚
霜葉紅於二月花

遠く寒山に上れば石径斜めなり。白雲生ずる処人家有り。車を停めて坐に愛す。楓林の晩霜葉は二月の花より紅なり。はるばると晩秋の山に上ると石の多い小道がうねうねと続く。はるか先の白雲のあたりに人家が見える。車を止め、晩秋の楓林を楽しむと霜にうたれた紅葉は二月の桃の花よりずっと赤赤している。



杜甫(老杜)に対して(小杜)と称された晩唐の詩人杜牧【803～853】の『山行』は

雲の白と楓の赤の対比が美しい晩秋の『七言絶句』。日本での人気が高い作品。古来より紅葉は様々な芸術作品の題材ですが、温暖化のせいで近年の見頃は十月より十一月。今年の十一月は晴天が多く朝晩の冷え込みと充分な日照で紅葉がより色鮮やかになるとか。小春日和に紅葉狩りや山行などを。

十一月の暦

霜月・霜降月

二日 白秋忌

近代日本を代表する詩人・北原白秋【1885～1942】の忌日。福岡県柳川に



海山物問屋だった実家が記念館として現存。三木露風と共に「童謡」というジャンル
の確立に才能を発揮「白露時代」を築いた。「城ヶ島の雨」「砂山」「あめふり」「この道」
など、中山晋平や山田耕筰作曲による多くの名曲を残した。

三日 文化の日

皇居にて、1907年以降は天皇が直接手渡しされる文化勲章授与式、前後日に文化庁主催の芸術祭が開催。国立近代美術館・西洋美術館・科学博物館などが無料公開される。

七日 立冬【二十四節気】

この日より立春(二月四日)の前日(節分)までが暦上の冬。【椿開き始む】

十日 酉の市(一の酉)

日本各地の大鳥神社の新年を迎える年中行事。浅草鷺神社が賑わう、



子規

十五日

七五三 近世までは乳児の生存率が低く生存を祝う節目とした。旧暦の十五日は

二十八宿の鬼宿日(鬼が出歩かない吉日)で旧暦十一月は収穫を氏神に感謝する月で満月である事から子供の成長を感謝し加護を祈念した。三歳の髪置(かみおき)・五歳の袴着(はかまぎ)・七歳の帯解(おびとき)紐落(ひもおとし)などの名残も。



二十二日

二の酉 関東三大酉市は鳳神社(浅草)・花園神社(新宿)・大國魂神社(府中市)。

二十二日 小雪

【二十四節気】 日射しが弱まり、紅葉も散り始める。北から雪の便りも。



二十三日

勤労感謝の日・新嘗祭 新穀を天神地祇にすすめ天皇もこれを食し、収穫に感謝する宮中祭祀(天皇が国家と国民の安寧と繁栄を祈ることを目的におこなう祭祀)が皇居宮中三殿で行われる。

一葉忌

近代女流作家の嚆矢、樋口一葉【1872～1896】の忌日。



あいつによるしく伝えてくれよ
今ならホテルで寝ているはずさ
泣いたら窓辺のラジオをつけて
陽気な歌でも聞かせてやれよ
アメリカの貨物船が

若くして父を失くし家計を支えようと文筆活動を始め、貧苦
の中、24才で没するまで約二十作を残す。名作「たけくらべ」
の舞台となった台東区竜泉に「一葉記念館」。十年余り生活した文京区に
「文京一葉会館」。共に記念イベント開催。

十一月の歌

冬のリヴィエラ 詞 松本隆 曲 大滝詠一 1982年11月

森進一のシングルでヒット。哀愁を感じさせながらも、どこか湿り気

の薄いメロディーと「男ってやつは、港を出てゆく、船のようだね」の
リフレインが印象的な新しい演歌。リヴィエラはイタリア語で海岸のこと。



「冬のリヴィエラ男ってやつは
港を出てゆく船のようだね
哀しければ哀しいほど
黙りこむもんだね」 後略